

ネパール便り 5号

ナマステ！

ご無沙汰しております。このシリーズは早くも第5号となりました。今回は、2009年12月中旬に出張で訪れた東ネパール地方の様子をお伝えしたいと思います。

12月第3週、UNFPAネパール事務所がサポートしている思春期リプロのプロジェクトを視察するために、東ネパールに位置するジャナクプル市とその近郊のマホタリ郡に行ってきました。ここはインド国境に近いので、インド系住民が多く、その他の生活様式もカトマンズとは異なっていました。



ジャナキ寺院：ヒンドゥー寺院の一つであり、ムガル様式の建築物

ジャナクプルは、歴史的なヒンドゥー教の聖地であり、そのシンボルでもあるジャナキ寺院が有名です。また、「ラーマヤーナ」というインドの古代叙事詩でも有名な場所です。

また、ジャナクプルはネパールで唯一の鉄道があり、路線は南側のインド国内にまで続いています。しかし、外国人はこの鉄道を使って国境を越すことはできないそうです。残念…。



その他に、ここはミティラーアートという女性が家壁に抽象的な民俗画でも有名な場所です。民家の土壁には様々なミティラーアートが描かれていました。



## 1. ピアエドゥケーター研修

さて、本題に入ります。出張先のジャナクプルでは、UNFPAのパートナーであるネパール家族計画協会（Family Planning Association of Nepal : FPAN）主催のピア・エドゥケーター研修を視察しました。



ピアエドゥケーション（仲間教育）というのは、その名の通り仲間を通じて健康に関する知識を得、かつ健康推進活動をする方法です。これはHIV/エイズ分野で広く活用されていますが、同様に思春期リプロの分野でも適用されています。

この研修では、18～24歳までの青少年が参加して、ピアエドゥケーターになる研修を受けていました。主な研修内容は、仲間教育理論と実践・リプロダクティブヘルス全般（HIV/エイズも含む）・青少年の発達・技術とスキル構築・リーダーシップと社会などです。

研修終了後、参加者は「ピアエドゥケーター」の資格を得ます。その後、彼らはFPAN運営の青少年センターやクリニック、または学校や地域で思春期リプロの啓蒙活動を行うことになっています。



ピアエドゥケーター証書

しかし、研修を受けたピアエドゥケーター達が有効に活用されているかという点、そうは言えないのが現実です。今後のプランとしては、啓蒙活動の一つとして、彼ら主催による地域の人々（特に大人）との対話の場を設けたり、ワークショップの開催を検討しています。また、小学校高学年から中学校レベルの生徒に対し、ピアエドゥケーターによる性教育授業の実施も行えれば、と考えています。



ジャンナプルでの研修参加者（写真左上）およびカトマンズの研修参加者（写真右上）カトマンズでも、異なる郡の若者を対象にFPANが同様の研修を行いました

## 2. ユースフレンドリークリニック

マホタリ郡では、同FPANの運営しているユースフレンドリー（青少年の利用しやすい）クリニックを訪問しました。今年度は、このクリニックを含め、4つのFPAN運営クリニックがUNFPAの支援で国内に設立されました。名前の通り、青少年を主に対象としていますが、もちろん地域の他の人々も受診歓迎です。主に准看護助産師（ANM；Auxiliary Nurse Midwife）レベルの医療スタッフが常勤でリプロダクティブヘルスに関する医療サービス（家族計画の相談、避妊の指導・支援、性感染症の予防など）を提供しています。

このクリニックは貧しい地域にある公立中学校の敷地の一面に設立されました。学校の敷地内ということで、地域の人々にはアクセスしやすいと思います（ただ、逆に言えば、知っている人に会う確立も高くなるので、こっそりクリニックを訪問したい人にとってはあまり



クリニックの内部とスタッフの准看護助産士

良い立地条件とは言えないかもしれません…）。

このクリニックには、青少年センターも併設されており、クリニック設立に併せてピアエドゥケーターも組織されました。彼らは、上述と同様の研修を12月に受け、正式にピアエドゥケーターになりました。



クリニックとピアエドゥケーターの若者たち

### クリニック利用者およびピアエドゥケーターの声

「（ピアエドゥケーターになる）前はとても内気だったが、今は性のことについて以前よりもオープンに話ができるようになった。医療スタッフも親切で親身である」（17歳男性）

「医療スタッフは 性に関する悩みの相談にのってくれるし、それ以外の健康問題にも対応してくれる」（19歳女性）

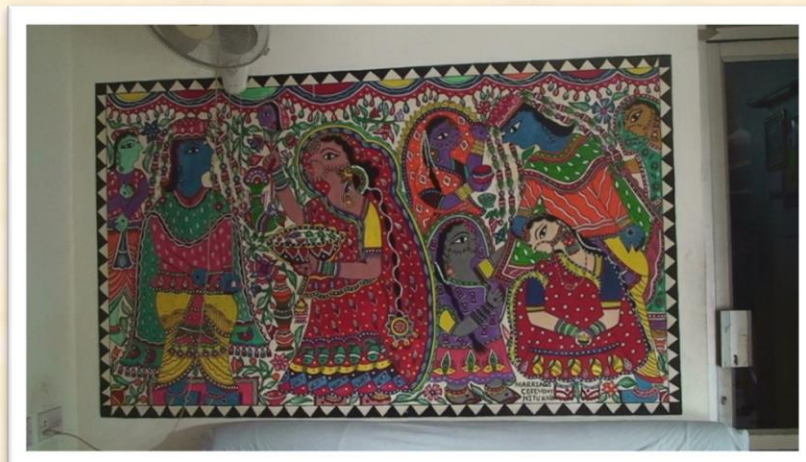
「今は、HIV・下腹部痛・生理等について医療スタッフに相談することができる」（22歳女性）

「両親は、私が私が社会の一員になること（ピアエドゥケーターになること）を誇りに思っている」（17歳女性）

「近くに医療施設ができたことは、自分だけでなく家族も喜んでいる」（18歳男性）

まだまだ続きはあるのですが、あまり長くなるのもなんなので、今回はここまでにします。

飛田紫峰（Youth Development Officer）



ジャナクプルの民俗画、

ミティラーアート